

休憩所「五十三次腰掛茶屋」

庭園北端の松林の向かいにある五十三次腰掛茶屋は、茅葺き屋根の簡素な休憩所で、腰掛は松林に面しており片側が開け放たれています。休憩所の後ろの壁には竹の格子があり、そこから岡山城をバックに庭園の美しい風景を眺めることができます。この休憩所は 1870 年代初めに新しくつくられたものです。腰掛茶屋の格子細工は、「庭園が隠れると同時に見える」ようにする効果を狙ったものです。

五十三次腰掛は「53 駅のベンチ」という意味であり、東海道の 53 箇所の宿場を表す扇形の絵が描かれた横長の額（扁額）が後ろの壁に掲げられていることからこの名がつけられました。五十三次はこの基幹街道沿いにある休憩所のことです。当時の人たちは京都から江戸（現在の東京）までこの街道を旅したのです。